



宇宙フライトの体験等を語る

## JAXA宇宙飛行士講演会

美郷町合併20周年記念事業の一環として「JAXA宇宙飛行士講演会」が7月6日に美郷町公民館で開催されました。

当日は宇宙飛行士の金井宣茂さんが「夢見る力の素晴らしさ『深海へ、そして宇宙へ』」と題して講演しました。金井さんは「宇宙から見える地球の街並みや季節感にとっても感動した。オーロラや雷などの自然現象を上から見ることで新鮮」と話しました。ほかにも、宇宙と地球での生活環境や体の変化、月面探索に向けての取り組みなどについて話しました。講演終了後には多くの質問があがり、ユーモアを交えつつ丁寧に受け答えていました。



ホオノキの苗木を植樹

## 薬樹の森づくり活動植樹事業

「薬樹の森づくり活動植樹事業」が7月7日に開催され、一般参加者のほか(公社)東京生薬協会会員、六郷高校1年生など約60名が参加しました。

当日は、東京生薬協会の広報委員会委員長である池村国弘さんが、ホオノキをはじめとする薬用樹木についての講話を美郷町住民活動センターで行いました。その後、旧花岡スキー場に移動してホオノキの苗木100本を植樹しました。当事業は「秋田県水と緑の森づくり税」を活用しています。



民話劇を鑑賞

## ドリーム体験!ほんもの講座

町内各小学校の1年生から4年生までを対象とした「ドリーム体験!ほんもの講座」が、7月10日に美郷町公民館で開催されました。本講座は各分野にて第一線で活躍している人たちが演じる、一流の芸術を鑑賞することにより、子どもたちの感性と創造力を育成することを目的として行われています。

劇団民話芸術座による民話劇「寝太郎物語」が披露された今回。ユーモアあふれる演技やダンスに、会場は終始笑いの渦に包み込まれました。



採れたてのブルーベリーを堪能

## こども園ブルーベリー収穫体験

町内の各認定こども園4歳児によるブルーベリー収穫体験が、7月17日に黒川農園で行われました。食べごろの実の見分け方を教わった園児たちは、早速農園を駆け回り収穫を開始。教わったとおりに摘み取ったブルーベリーを頬張ると、思わず笑みがこぼれていました。参加した園児からは「甘くておいしい!」「また食べにきたい!」といった声が聞かれました。



MISATOPICS

町の話題



地元商店街を盛り上げたい

## 六郷小学校の児童が地元店のポスターを制作

六郷小学校では、各学年ごとにテーマを決めて地域から学ぶ総合的な学習を行っています。その一環として、6年生が6月から7月にかけて六郷商店街にある店舗のポスター制作に取り組みました。この取り組みは児童たち自らが発案したもので「地域を知ってもらいたい、商店街を盛り上げたい」との思いが込められています。

制作は10班に分かれ、1班1店舗を担当しました。6月25日には有限会社グラフィックコミュニケーションの高橋成人さんからポスターデザインの指導を受け、7月2日から3日にかけては担当する店舗を訪れ、店舗の看板商品や特徴などをインタビューしました。制作期間中は、高橋さんから教わったことを生かしたり、他の班の工夫を参考にしたりしながらポスターを制作する児童たちの姿が見られました。

ポスターは各店舗、名水市場湧太郎、道の駅美郷、六郷小学校に掲示されています。



COLUMN WINDS

コラム

# 風

## 住み良さ

美郷町長 松田知己

7月10日、大手賃貸事業者が毎年実施している「街の住みこちランキング2024」が発表されました。ランキングには多くの分類があり、それぞれ順次発表していくことですが、この度はその皮切りとして「住みこちランキング」が発表されたところ です。ちなみに美郷町は、その分類の一つである「街の幸福度ランキング」で、昨年まで3年連続県内1位をいただいておりますので、その発表がいつなのかが大いに気になるところです。

さて、この度の結果についてですが、美郷町の順位はなんと県都秋田市に次ぐ県内2位でした。この分類での昨年順位は3位でしたので、今年はランクを一つ上げたこととなります。評価内訳を見てみますと、「物価家賃」が25市町村中1位、「行政サービス」「静かさ治安」「防災」が2位、「賑わい」が4位、「交通利便性」「親しみやすさ」が5位、「生活利便性」が7位となっております。総合で2位という結果のようです。私としては、「行政サービス」が県内2位という結果が実に「嬉しい〜！」というところ です。



▲「陸上自衛隊第9音楽隊コンサート2024 in美郷」であいさつをする松田町長

実際に住んでいる方々の評価がこうですので、ならば「美郷町を知らない人に町を知ってもらいたい、実際に住んでもらおうじゃないか」となるのは、ある意味で当然の帰着です。町

では、こうした観点も含んで、昨年より定住促進施策の一つとして、旧わくわく園跡地の宅地転用に取り組んでいるところです。現在、宅地造成の設計を進めており、設計終了後に造成工事に係る予算を町議会に諮り、認めていただければ工事着手、そして数年後には宅地販売という流れになります。民間事業者の開発と併せ、官民で定住促進に努めていきたいところです。なお、町の事業コンセプトは「環境負荷軽減」。係る宅地への住宅建築に際しては、そうした方向に誘導する支援策も今後検討していくこととなります。

「住めば都」という言葉があります。ここでいう「都」は、住み良さを意味するわけですが、その自己評価が高い美郷町。こうした評価を維持するよう、引き続き行政サービスや防災、賑わいなどの分野の取り組みに注力していきたいものです。